

インターバンクの声（2016年3月1日）

前週末のニューヨーク市場後半と週明けの東京市場で久しぶりに114円に乗せようとしていたドル円だったが、いとも簡単に112円台に戻ってしまった。昨日の朝方は、20カ国地域（G20）財務相・中央銀行総裁会議の声明に対する市場の好意的な反応がほとんどなく、日経平均株価の寄り付き直後の上昇にドル買いとなった場面以外は、終日ドル売りとなってしまった。一部で注目されていた2月中（1月28日から2月25日まで）の介入があったかどうかを確認出来る財務省の外国為替平衡操作実施状況でも介入額がゼロで、これもドルの買戻しに繋がらなかった。その後、ロンドン市場に移ったところで発表された2月のユーロ圏消費者物価指数が弱く、欧州中央銀行（ECB）の追加緩和観測が確実視されてのユーロ売りがドル円を下支えする格好にはなったが、当然ドルを押し上げるような力はなかった。ニューヨーク市場では、最近是好調な発表が続いた指標結果が、昨日はシカゴPMI景気指数や1月の中古住宅仮契約指数などが予想外に悪く、ニューヨーク・ダウも下げ基調となっはドル円も浮上出来ない。もう一段円買いが続いて短期の円売りポジションが一掃される必要があるのかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにもご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。